SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

NIFEEコース(第5期)(年次報告(平成25年度後期・26年度前期) I 日本語・日本事情教育)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2015-03-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 袴田, 麻里
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008118

内　　容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

6．学内での連携

集中コースという性格上、研究室での活動に制限が生じる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コースについて指導教員から理解を得た。また、申込み用紙には、受講者と指導教員が受講理由を書く欄を設け、指導教員からの受講許可を明確にした。

中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに指導教員へ送付し、指導教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。また、留学生支援ボランティアを教室に招いてインタビューさせるなど、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れられるよう心がけた。

平成25年度　NIFEEコース（第５期）

袴田　麻里

1．コースの趣旨と目標

工学部でのNational Interfacing Engineers Education program（NIFEE）開始に伴い、21年度後期から開講した。NIFEEは、日本のモノづくり、品質管理・生産管理を学ぶための特別講座が組まれており、日本語・日本文化とともに工学分野が勉強できる留学生プログラムである。対象は、タイ、ベトナム、インドネシアの3国のみである。

初年次秋学期は導入期間とされており、国際交流センターは、全学教育科目として、初年次秋学期に日本語集中授業（週10コマ）を担当した。

2．授業期間

第5期：平成25年10月8日～平成26年2月10日

3．受 講 生

3名の一般選抜留学生（ベトナム2、インドネシア1）の受入れであった。

4．日程と時間割り

〈日程〉　9月25日（水）　来日
　　10月4日（金）　プレースメントテスト
　　10月7日（月）　ガイダンス
　　10月8日（火）　コース開始

12月６日（金）　中間試験
２月７日（金）　期末試験
２月10日（月）　コース修了

〈時間割と担当者〉

	月	火	水	木	金
12：45－14：15	文法、語彙［国セ専任］	文法、語彙［非常勤］	科学系日本語［非常勤］	文法、語彙［非常勤］	文法、語彙［非常勤］
14：25－15：55	作文［非常勤］	速読［非常勤］	聴解［非常勤］	作文［国セ専任］	会話［非常勤］

５．授業概要

表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に学部生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

語彙・文法　４コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目　　的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。
②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内　　容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、３～４コマに１コマは復習の時間を設ける。漢字テストは１課終了ごとに行なう。

速　読　１コマ／週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目　　的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内　　容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

作　文　２コマ／週

使用教材：自主製作教材

目　　的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるように

なる。

内　　容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

聴　解　1コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）
『毎日の聞き取り50日　中級』上、下（凡人社）
『毎日の聞き取り50日　中級プラス』上、下（凡人社）

目　　的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内　　容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにくかった部分については、その理由について考察する。

会　話　1コマ／週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目　　的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内　　容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

科学系日本語　1コマ／週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目　　的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内　　容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

6．学内での連携

来日時の日本語能力が学部入学レベルではないこと、年齢が低く精神的に不安定であることを考慮して、工学部との連携を強化した。特に各学生のチューターは、勉学の支援だけでなく生活面の支援も行うであろうことが予想された。そのため、事前に国際交流センター教員が面談を行い、留学生特有の問題点などについて、簡単なガイダンスを行った。

工学部の正規生として在籍しているので、指導教員とNIFEE授業担当教員へプレイスメントテストの結果を送付し、学生の日本語力把握を促した。また、中間試験、期末試験結

果は、履修状況とともに指導教員とNIFEE授業担当教員へ送付し、相互に連絡を取り合いながら、半年間の指導にあたった。

コースでは、留学生支援ボランティアや学外者をゲストに招き、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れる機会を作るよう心がけた。

コース以外にも日本人や日本文化への理解を深めるため、浜松市民のグループからの申し出を受け、月に一度交流する機会を設けており、この交流会は現在も継続している。

日本語教育プログラム

案野　香子／袴田　麻里

１．コースの概要

日本語教育プログラムは静岡大学で勉強する全ての留学生のための15週間の日本語コースである。学習内容には、日常的コミュニケーションのほか、研究活動に必要な口頭発表やレポート執筆の技能なども含まれている。日本語を初めて勉強する人の入門科目（日本語1）、初級科目（日本語2）、中級前半科目（日本語3）、中級後半科目（日本語4）、および上級科目（日本語5）の5つのレベルがあり、プレイスメント・テストの結果によってレベルを決定する。所定の基準を満たせば単位が認定されるが、このプログラムで履修した単位は卒業単位には含まれない。

留学生の定員に空きがある場合には、静岡大学の研究者・留学生の配偶者などで、プレイスメント・テストの結果から、当プログラムの留学生と日本語力が同等であると判断され、センター長が適当と認めたものは、所定の授業料を納付してこのプログラムを受講することができる。ただし、成績評価及び単位の認定はできない。

２．静岡キャンパス

平成25年度後期

開講期間は平成25年10月9日㈬から平成25年2月10日㈪までである。入門、初級、中級前半、中級後半、上級の5レベルを設置した。

【日本語１－Ａ（日本語入門）】

授業時間数：週3コマ
学 習 内 容：初級文型の学習と総合的なコミュニケーション練習。
使用テキスト：『にほんご45じかん』、国際交流センター開発教材『平仮名』・『片仮名』
受 講 者 数：11名

【日本語２－Ａ（日本語初歩）】

授業時間数：週3コマ
学 習 内 容：文章を読み、文法練習をする。会話、聴解、作文の練習をする。